

# 現教だより 1

## 3年算数少人数授業 「わり算」を通して

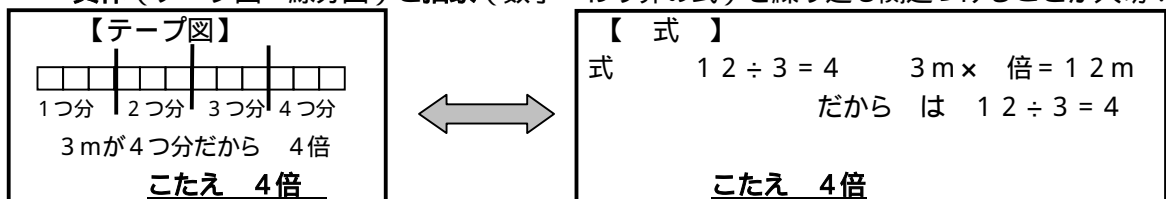
### 1 本時のねらい

- 紙テープやテープ図をもとに3cmずつ区切る活動を通して3mのいくつ分(何倍)が12mになるかを考え、何倍かを求める計算もわり算で求められることに気づき、わり算の式に立式し答えを求めることができる。

### 2 討議して明らかになったこと

#### (1) 算数科教材として

- わり算の意味には、等分除(ある大きさを何等分かしたときの1つ分の大きさを求める場面)と、包含除(ある大きさの中に1つ分の大きさがいくつ含まれるかを求める場面)の2つがる。かけ算との関連では、等分除は、 $x \times a = b$  にあてはまる数を見つける計算で、包含除は $a \times \quad = b$  にあてはまる数を見つける計算である。何倍を求める本時の学習も包含除の1つとしておさえたい。
- 児童の反応の中に、テープ図を2つずつ分けた児童もいたが、もとにする量がいくつなのかは、これからの授業でとても大切になるので、しっかり意識付けたいのもである。
- 具体(テープ図・線分図)と抽象(数字・わり算の式)を繰り返し関連づけることが大切!



#### (2) 指導全体として

学習問題が出た時、分かっていること、気づいたこと、予想などをしっかり自分の言葉で言わせる。

「最初、テープが12mありました」  
「私はわり算だと思うわ」  
「ぼくは、かけ算だと思うよ」  
「答えは3倍だと思うよ」「いや、4倍だと思うよ」  
「何倍だから、いくつとれるかということ...」

かけ算・わり算と言っている人がいるよ。おもしろいね。どちらで...  
君は、3倍だと言っているよ。  
さんは4倍だと言っているよ  
どうして3倍だと思ったの?

しっかり児童につばやきをさせる。そのわけを教師がたずねたり、整理したりして板書に残す。



そうした中で、児童に解決の見通しを持たせる。

また、つまづいたとき、いつも板書にもどって考えさせる。

本当に分かっているのか、分かったことを自分の言葉でしっかり言わせたい!

「本当に...と言えるの?」など、児童にゆさぶりをかけることも。

# 算数科における学習展開について

実践例 3年算数「わり算」

導入

- 既習学習（等分除・包含除）の確認をする。
- 12 mのリボンは、3 mのリボンの何倍ですか？
- 学習問題を掲示し、**気付いたことを自分の言葉で**しっかり言わせる。
- 既習学習との違いや話し合いから、学習課題を明確にする。

課題把握

何倍になるかを求める計算の仕方を考えよう。



- 何倍だから、かけ算かな？
- ぼくは、わり算だと思うよ。
- 3ずつ切っていけば...
- テープ図でできそうだよ。
- 何倍は、いくつ分ということだから...

見通し

・3 mがいくつ分あるか考えたらいいんだ。

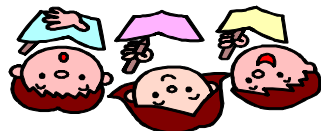
自力解決

具体的操作  
算数的活動

- A 実際に12 cmのリボン（紙テープ）を切って確かめる。
- B 12 cmのテープは3 cmのリボン（紙）の何本分か、実際にならべて比べる。
- C ノートにテープ図をかいて、3 mの何倍か考える。
- D わり算（かけ算）の式にかいて、求める。

学び合い

【リボンを切って】	【テープ図で】	【わり算の式で】
		$12 \div 3 = 4$
3 mが4本とれるから4倍	3 mが4つ分だから4倍	$3 \text{ m} \times \text{倍} = 12 \text{ m}$ だから $12 \div 3 = 4$



3 mずつ何人に分けられるかと同じだ。何倍にあたる数を求めるときも、わり算の式にあらわすとできる。

練習問題

振り返り  
自己課題

- 何倍かを求めるときは、わり算でしたらすぐできるよ。
- 一人いくつか、何人に分けられるか、何倍かもわり算で求められることがわかったよ。
- 何倍かを求める計算問題を自学でいっぱいしてくるよ。
- もう他には、わり算が使える問題はないかな？調べてみたいよ。